

「自然環境」を 持続可能にする

ENVIRONMENT

持続可能な未来のために 環境に優しい商品提供や取組みを推進

当社では、脱炭素等に貢献する取組みの一環として、自然環境に配慮した様々な商品を新たに提供しています。リサイクル羽毛を使用したオリジナルの布団をはじめ、漁網やペットボトルなどの多彩な再生素材を使用した商品やパッケージを積極的に採用しました。また、カタログ通販事業者という立場から、紙の効率的な使用を進めるとともに、世界共通の喫緊の課題である、温室効果ガス削減に向けた取組みも進めています。

貴重な資源を大切に使い続ける、 リサイクル羽毛のオリジナルブランド

耐久性に優れ、約100年間は循環できると言われる羽毛は、くらしを豊かにするための大切な資源のひとつです。そんな貴重な羽毛を守るため、当社では、使われなくなった羽毛布団をリサイクルした独自のブランド「reumo(リウモ)」をリリースしました。同ブランドは、一度役目を終えた羽毛布団を再利用し、recover(取り戻す)、reborn(生まれ変わる)、release(汚れを落とす)の3つがキーワード。全国から羽毛布団を回収し、それらを一般的な新毛よりもさらに丁寧に洗浄をかけて高品質な羽毛に仕上げ、ふっくらと新たな羽毛布団に仕立てました。

今後も「reumo」を使用した寝具はもちろん、ファッションなどの幅広いジャンルでの展開を予定しています。



全国から回収した羽毛をリサイクルして製品化したオリジナル商品「reumo」



羽毛の回収から徹底管理のもとで生まれ変わるサイクル

「自然環境」を 持続可能にする



漁網からペットボトルまで多彩な 再生素材から生まれる商品を採用

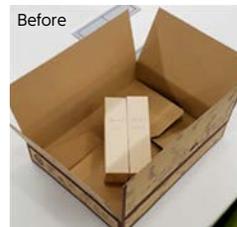
循環型社会の実現を目指し、これまで廃棄するしか
なかったものを再生し、新たな素材として利用する
動きが進んでいます。当社でも、漁網やペットボトル、
レザー、廃タイヤなどがリサイクルされた多彩な再生
素材を使用する、様々な商品を新たに提供しました。
例えばファッション分野では、リサイクルポリエステルと再生繊維をブレンドしたニットカーディガン
や、ペットボトルのリサイクル糸で作ったシューズ
など、サステナブルなだけではなく、快適な着心地・
履き心地も実現しています。

今後も、自然環境への影響を最小化しながら、持続
可能な方法で限られた資源を利用すべく、再生素材を
はじめ、循環視点のあるアイテムを広げていきます。

リサイクルポリエステルと再生繊維をブレンドした
サステナブル素材「ボリズム」を使用したニット



ペットボトルをリサイクルしたポリエステル糸で縫いだシューズ、
付属のペーパーバッグは水で洗えるくらいの丈夫さで、靴袋だけでなく、様々な用途に



Before After
荷崩れ防止のための資材を、フィルム素材から廃棄せずに
何度も使用できるグリーンベルトに変更

エコ配送(メール便)サイズに変更することで、
環境への負荷を軽減

紙の価値と自然環境を一緒に考える R100自社再生紙100%の社内報を発行

当社はカタログなどの紙媒体を使用する通販事業者という立場から、「責任
ある紙の使用」に積極的に取り組んでいます。その考え方にに基づき、これまでインター
ナルコミュニケーションの一環として発行してきた紙媒体の社内報を、R100自社
再生紙100%で発行しました。

社内で要らなくなった使用済のコピー用紙を回収し、外部企業の協力のもとで、
環境負荷に配慮しながら、新たに再生された用紙を使用。長年、カタログ通販を
展開し、紙の価値を大切にしている企業として、社内古紙再生という身近な“循環”
ストーリーが、従業員にとって改めて紙の可能性とサステナビリティを一緒に考えて
いくきっかけになることを目指しました(※R100…古紙パルプ配合率100%)。



社内古紙を回収、再利用して発行した社内報

気候変動の緩和に向けて、 温室効果ガス削減への取組み

2050年のカーボンニュートラルを目指し、様々な業界で多く
の企業がそのための動きを加速させています。当社でも、
GHGプロトコルに基づき、スコープ1・2・3区分ごとの直接・
間接排出量を把握、温室効果ガス排出量の算定を行うとともに、
その削減に向けた様々な取組みを推進しています。

「ディノス」の商品を扱う物流倉庫・ディノスロジスティクス
センター東京では、脱プラ対策の一環として、荷崩れ防止用の
フィルム資材をグリーンベルト(エコバンド)に変更。また、
オリジナルコスメブランド「イミニ」では、配送の梱包サイズを
小さくし、主要商品をエコ配送(メール便)に切り替えるなど、
輸送エネルギーの効率化につながる取組みを進めています。

日田杉大径木を活用した、 家具プロジェクト

植林後50年を超えても未だ伐採されていない、大分・日田地方に残る多くの杉。これらは森林の循環サイクルを滞らせ、自然災害の被害を広げる一因にもなっています。山に残された樹齢50年以上の大径木(幹の直径が約40cm以上)を活用できないかと、地元・九州の製材所であるウエキ産業、家具デザインカンパニーのIKASAS DESIGN(イカサデザイン)、そして当社が一体となった家具商品開発のプロジェクトがスタートしました。木が生きていた証の木目や節を自然のまま活かし、樹木1本1本の個性を大切にしつつ、現代のライフスタイルに合うようデザインをプラス。また、杉本来の質感を活かしつつ色にもこだわりました。日本古来より馴染みの深い杉に現代の感性を重ね、長年愛される家具を目指しています。日田で生まれた杉が私たちの手で家具へと生まれ変わり、それらがお客様の暮らしを彩っていく。様々な人がつながることで、森を守るサステナブルなモノがたりが動き出します。

